

大好き！絵本

初瀬 恵美



やさい



平山和子 著

『やさい』

作:平山和子

出版社:福音館書店

保育園の畑仕事を一手に引き受けて下さっていた船本さんがお亡くなりになられてから、もうすぐ1年になります。試行錯誤で野菜を育ててみているものの、畑だけに時間を割くことはできず、そして、育土ができていない畑の無農薬栽培となると、虫たちにとって食の宝庫となり、野菜を育てることの難しさを痛感した一年でした。「実りの秋」は、夏の暑さの中の労力や、手間暇・愛情をかけてこそ迎えることができる季節だったんだな～と改めて感じています。

今月は育てることの難しさを知った「野菜」をテーマにして、40年以上も愛され続けている大ベストセラーの『やさい』の絵本をご紹介します。作者である平山さんの絵本は『やさい』以外にも『くだもの』や『いちご』などがあります。その写実的でみずみずしく描かれた絵本が私は大好きです！

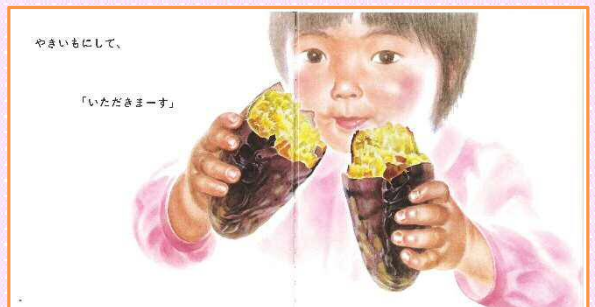
『くだもの』の絵本と、『やさい』の絵本は、言葉で聞き比べれば、似ていますよね。シリーズではあるのですが、中の構成はあきらかに違います。

『くだもの』はもとの形から切ったり、皮をむいたりして食べることができる状態にして「さあ、どうぞ」(召し上がれ)というような構成。子どもたちは、受け取って「アムッ」「おいしいね～」とよく食べるマネをしています。思わず手をのばして食べたくなるほど、おいしそうな絵なのです。

一方、『やさい』は、畑で育った姿が描かれたあと「やおやさんに ならびましたよ」という構成になっています。例えば大根は、おじさんが畑で収穫する場面がまず描かれています。青々とした葉が一面に広がる畑。ページをめくると農家さんが手がクローズアップされて、土からひっこぬく様子が描かれています。さらにページをめくるとやおやさん(スーパー)でよくみかける葉が切り落とされた、大根が描かれています。「やおやさんに ならびました。ふとった だいこんですよ。」と書かれています。

『やさい』の最後をしめくくるのは、さつまいも。収穫して、やおやさんに並んだ後は、「やきいもにして、『いただきます』」と終わっています。

保育園のさつまいもは、なんと植え付けた苗が虫にくわれほとんど育ちませんでした。わずかに残った苗からお芋は、いったいどれくらい収穫できるでしょうか。おいしい焼き芋ができるといいな～と思います。



誕生日おめでとう

